

日 時 2005. 11. 4
場 所 札幌北陵高校会議室

- A それでは北陵高校将来構想委員会主催の2005年教育懇話会「中高の連携を探る」を開催いたします。まず学校長からのご挨拶です。

学校長 本日はまことにご苦労さまです。今日はこのような懇話会を開催いたしましたところ、授業や校務の錯綜する中で参加していただいたこと、心からお礼申し上げます。また、日ごろから教育活動にご尽力いただいて優秀な生徒さんを育てられていることに敬意を表しさらに、本校にも優秀な生徒さんを送ってくださることに感謝の意を改めて示したいと思ひます。ありがとうございます。今日は、授業を見ていただいたの率直な感想ですとかあるいは先生方の学校の実態、また教科の連携などを柱にしてご意見をいただければ幸いです。また先日あらかじめ先生方からアンケートをいただいておりました。私も一通り目を通させていただきましたが、特に教育課程の問題ですとか、高校入試の一般選抜・推薦入試、さらには総合的学習の時間、あるいは中高連携のあり方についてたくさんのご意見や質問をいただきました。私どももいたしましても、そのような意見・質問を参考にしながら、この将来構想検討委員会の中で検討させていただき、ますます地域に信頼される、開かれた学校として尽力したいと考えております。特に私は学校が良い評価をされるには長い年月が必要だと思っております。本校もその内の三十数年が過ぎまして、これはやっとな基礎の部分が出来たのでありまして、これからの十年・二十年が充実期として重要な時期であると認識しております。そういう意味で本校のあり方も十分に検討されて行かねばならないと思っております。その中で、平成十九年度を目標にして教育課程や進学体制を大幅に変えて新しい北陵高校としてスタートしたいと考えております。先生方とのこの懇談は非常に重要なものと考えて、本日は「中高の連携」というテーマであります。積極的に議論をして頂ければ幸いです。これを契機に来年度以降の先生方とのさらに一歩進んだ融合を目指して行きたいと思っております。簡単ですが、ご挨拶に代えさせていただきます。本日は宜しく申し上げます。ありがとうございました。

- A 続いて簡単に本日の趣旨説明をさせていただきます。私、先生方に連絡調整させていただきました、将来構想検討委員会のと申します、この会の企画をいたしました。本日は誠にありがとうございました。後ろの横一文字を見て頂ければわかるのですが、「教育座談会」となっております。本日の趣旨は、「教育懇話会」でありまして、座談会ではなくて、懇親も兼ねた、肩肘の張らないざっくばらんな会にしようと考えております。なぜこの横一文字をはらせて頂いたかということ、実はこれは一昨年十二月に、北大・北海学園大・中学教員などの教育関係の有識者の方々に集まって頂いて、本校教育の方針を考える座談会を開催し、この会において現在の将来構想検討委員会の方向性を決定するようなものがつかめたということで、はらせて頂いております。また、

去年は近隣三中学から十五人の生徒さんに来て頂いて、「高校生活に望むもの」と題して話を聞かせて頂いています。その内の何人かは本校を受験し、現在一年生で在学しています。これも受験生の思いを真摯に受け取る場として非常に意義があったと考えています。そして今回がその企画の集大成ということで、先生たちにお集まり頂いたこととなります。互いに意見を交換し合いながら、どちらにとっても意義のあるものにしていきたいと思います。よろしく願いいたします。一つだけ、入試説明会としての趣旨ではないということを確認させていただきます。以上、この会の趣旨を説明させていただきました。それでは続いて、各参加者の自己紹介をお願いいたします。私は先ほども申し上げましたが、この会を企画いたしました将来構想検討委員会委員の
です。現在一年生の担任、国語科、この学校で五年目になります。よろしく願い致します。

- B 本日はどうもありがとうございます。教務部長をしております と申します。将来構想検討委員会の委員長でもあります。本日司会をさせて頂いて、入試に対する観点等 忌憚ない意見を聞かせて頂ければと思っています。これを機に中学校と高校のざくばらんな関係が築ければと考えます。よろしく願い致します。
- C と申します。2学年の主任です。教科は数学、ソフトテニス部・合唱同好会の顧問でもあります。よろしく願いします。
- D 教頭の でございます。中学校訪問の時にはいろいろとお世話になりました。今日はいろいろな意見を聞かせて頂きたいとおもいます。どうかよろしく願い致します。
- E 同じく教頭の でございます。ご案内差し上げているように11月に入りましたらまた、各中学校を訪問させて頂き、お話しさせていただきますが、この会を契機に今後ともよろしく願いしたいと思います。
- F と申します。今2年生の担任、英語科です。よろしく願い致します。
- G と申します。国語科です。公開授業をさせて頂きました。感想などもお聞かせ願えればと思います。この学校5年目です。現在1年生で授業を持っていますが、今日公開した5組は元気なクラス、言い換えれば楽なクラスとも言えます。授業のやり方もクラスによって変えて行かなくてはならない部分があったりします。後ほどそんな話になればと考えます。よろしく願いします。
- A それでは、我が校の参加は将来構想検討委員会の委員、おいおい入ってきますけれど、各中学校の先生方の方から自己紹介お願い致します。並んでいる順番でお願いしたいと思います、

- H TK中学校のHと申します。本校は新設校ということでまだ卒業生はいませんが、今後沢山お世話になるだろうと思います。よろしくお願い致します。
- I KH中学の I と申します、よろしくお願い致します。本来は進路指導担当の者が申し込んでいたのですが、担任をしながら進路指導をしていると説明会などに出向くことも多くて大変なので、今日は私が代わりに来ました。授業公開は今まで高校の授業を見る機会がなかなかありませんでしたので、非常に参考になりました。ありがとうございました。
- J HK中学校のSと申します。進路担当しています。教科は社会科です。卓球部の顧問でもありまして、市内ナンバー3の子が御校に是非来たいと言っています。良く学校の様子を見てきてくれと頼まれました。学校説明会など良く参加させていただきますが学校によってそれぞれイメージが違うなと感じております。今後ともよろしくお願い致します。
- K HM中学校のUと申します、よろしくお願いいたします。
- L SK中学校の進路担当Kと申します。この学校のすぐ近くに住んでおります。
- M S中学校の進路担当Sと申します。国語を教えています。よろしくお願い致します。
- N T中学校の教頭のOと申します。卒業生が現在御校一年生に33名在籍しております。きわめて近い学校同士ですので今後ともお世話になりと思います。どうぞよろしくお願い致します。
- O おなじくT中学校の進路担当のMと申します。現在の高校1年生をこの春に卒業させました。授業を見せて頂いて、何人かの子たち久しぶりに顔を見て、中学校時代以上に頑張っているようなので安心しております。今後ともよろしくお願い致します。
- P H中学校のIと申します。私もこの春、卒業生を出しました。そしてまたすぐ3年生の担任ですので、来春もまたお世話になると思います。よろしくお願い致します。
- Q SK中学校の進路担当、Hです。高校の授業はなかなか見れなくて、今日は非常に良い機会でした。ありがとうございます。
- R NT中学校のYといいます。進路担当です。よろしくお願い致します。
- S M中学校のOと申します。三年生の担任をしています。教科は英語なので、公開授業の英語は大変参考になりました。送り出したは良いけれど高校でどんな風に授業を受けているのか常々心配していました。受験指導に当たっても、中学と高校の授業の

ギャップを認識していかないといけないと思いました。今年の春の卒業生は3人ほどしかお世話になっていないのですが、今の高3に私のクラスだった子がいて、たまたま会ったものですから、懐かしく話し込んでしまいました。非常に元気に過ごしているようで良かったです。学校選択に当たって開成か北陵かで悩む子たちがいて、通うのにどのくらいかかるのか実地調査もかねて来ました。あっという間についてしまいまして、昔とはずいぶん違うな、これなら大丈夫だなと思いました。今日の話が学校に持ち帰って行きたいと思います。よろしくお願い致します。

T AH中学校のKと申します。公開授業の時、3年生の教室前をちょっと通らせて頂いたのですが、卒業生の顔が見えまして、丁度目があったのですが、にこっと笑った顔が3年前と同じで、本当に素直に育てて頂いているなと感じました。そのような先輩からの言葉などを進路便りにして乗せたりと言うこともあり、現在の3年生は約50名以上が御校を志望しております。また沢山お世話になると思いますがよろしくお願い致します。

A それでは本題に入りまして、先生方のアンケートを基に話を進めていきたいと思えます。司会を佐藤に代わります。なお、学校長は所用がありまして中座致します。

学校長 私がいない方が話しやすいでしょ。(笑)

B 途中から参加しました滝本先生、自己紹介をお願いします。

U 将来構想検討委員会委員の滝本と申します。途中からで申し訳ありません。総務部長をしております。学校説明会・学校訪問の担当をしておりますので、今後先生方ともお話をする機会が多くなると思います。よろしくお願い致します。教科は体育、サッカー一部の顧問もしております。進学・進路での中高連携は勿論ですが、部活でもいろんな意味で連携ができればなと考えております。今後ともよろしくお願い致します。

B では前半では、高校入試の件と中学校の進路指導で抱えている問題点などで、すぐ解決できるかどうかわかりませんが意見の交換・すりあわせなどができればと思います。アンケートをベースに進めていきます。一点目は高校入試全般に対することです。家の学校に限らないのでどんなことでもおっしゃってください。入試が多様化してきました本校でも推薦入試導入しましたが、先生方の意見を見させて頂くと大きく二つに割れていまして、「良い」というのと「やりづらい」と、さらに「絶対評価」にも先生方苦勞なさっていることが読み取れるのですが、この辺を切り口にしたいと思えます。では、「推薦入試」に対して、口火を切って頂くということでアンケートの「枠が広がって助かっている。今後も維持して頂きたい。」という意見、どちらの学校でしたでしょうか。

J 私です。まさに書いてあるとおり、大変助かると思っております。以前は専門課程

のみの推薦枠でしたが、普通科に導入されたことで単純に考えても受験機会が増えて、どうしてもこの学校にと考える生徒には良かったと言えます。今後道教委がどういう方針を提示するのかわかりませんが、少なくとも今の枠を維持して頂ければありがたいと思います。

- B 推薦に関して話を集中させたいと思います。要件に関していくつかの意見があるようですが、だいたいどの学校でもわざとぼかしたような言葉にしてあるようですが・・・H先生、いかがでしょう。
- H 御校がというわけではないのですが、「A且つB」という生徒を求めている学校があります。たとえば「勉強且つ部活」とか、スーパースターを求めているのかと思うこともあります。要件がぼやけていることで具体的にイメージしづらく指導しにくい点もありますが、逆にそれが「高校ではこんなすごい条件が出ているが、あなたはどうか」という風に使うこともあります。レベルの高い生徒を求めることが悪いというのではないのですが、ちょっと具体的に見えない点があります。しかし、その要件を使って逆に生徒を鼓舞することもありますね。
- B 要件を進路指導に利用することは大事な点だと思うのですが、もうお一方、T中学校さん、いかがでしょう。
- O 正直言うと推薦は迷います。推薦委員会を設けて基準を設けていますが、生徒から希望が出されても、要件を満たしているかどうかの判断は難しい。親との軋轢が生じたりした時に「どうして家の子は推薦してくれないのか」と言われて、要件に合う合わないで説明しても具体的ではないので困ることがあります。生徒指導に使える部分もありますが、それはやはり本来の使われ方とは違う部分かなとも思います。さらに、同じ学校をランクづけるにしても、学校基準の格差があるのではとも思います。
- B 先日中学校訪問をした時に、ある中学校でこんな話を伺いました。先ほど複数受験の機会ができて良いという意見がありましたが、逆に落とされた方の子にしてみると立ち直れない子もいるのだと、15歳での「落ちる」という体験はものすごい打撃ではないのか、といわれて私もハッと考えたんですよ。私たちも同様に大学推薦で落とされたりしていますが、高校生でも落ち込む子がいたりするのに中学校はもっと大変ではないかと思うのですが・・・
- T 最終的には担任がその子をどれだけ見ているかということだと思うんですが、普通科では最近ですが職業科では以前から推薦があったわけで、以前私が担任した生徒で、推薦委員会でも担任でも「入るだろう」と思っていた子が落とされたことがありました。何で落ちたかわからない。まあ、推薦が駄目でも受験で再挑戦することを前提にしますが、やはり女の子二人が怖じ気づいてしまって再出願もしたくないということが確かにありました。私個人としては止む終えないことだとも思うんです。推薦とい

うのはそういうこともあり得るということを考えさせた上で指導しないといけないのではないかと。具体的に「何点だから受かった・落ちた」といえないので、ランクで言えばAが落ちてCが入ったということもあったり、判断材料がわからないので、その辺をいただければなあとも思うんですが。

B それはやはり要件の曖昧さということもあるかもしれませんね。私たちの方ではもう「総合的に」としか言えない部分ですけど。学校選びという観点から推薦に対して意見をお持ちの方ありませんか。

O 質問も含めて、普通科に推薦が広がったことで「推薦の大安売り」と言ったら支障があるかもしれませんが、集団の中で、学校長が「よし」と言っても本当にその生徒が推薦にふさわしいのか、推薦に値する生徒が本当にどれほどいるのかと考えた時にそんなに多くはいないはずだと思ってしまいうんですが、結局枠が増えたことによって、親や子どもにすれば要求しても良いことになってしまっていて、インフレ状態になっているような気がします。本当にレベルを維持できているのかと逆に心配になります。また、ある学校の説明会で生徒に「中学校から推薦をかけてもらいなさい。もし落ちてももう一回受験してください。」といわれたことがあったようです。推薦で落ちても一般受験のポイントになるような言い方をされたようで、希望者が殺到したことがあります。そんなことがあるのかどうか、答えは知りませんがそういう情報が流れていけば混乱しますよね。受験機会が増えるのは望ましいことなんですけれどそれをテクニックのように使われるのは中学校としては心外であると思います。

B そのポイントになるような話をしたのは公立高校ですか？

O そうです。結構前の話なんですけど、実際に管理職を通してその学校にクレームをいれ、後日、高校側が撤回しに来たというようなことがありました。

B そのような件について、高校の進路指導担当者から何かありますか。

D はっきり言えるのは、推薦入試を受けて落ちたことで、一般入試が有利になるということはありません。

E 以前、教頭会で注意を受けたことは、推薦入試に関して高校側が「100%合格」のように請け負って受験させているような噂が流れたことがあったようなんですが、制度として「100%合格」なんてことはないんですよ。だから「必ず」とか「絶対」などという言葉は軽はずみに言わないということです。この点は誤解のないようにしておきたいと思います。

C 高校側として先生方にお聞きしたいのですが、今、ソフトテニス部を持っていて今年は非常に強い生徒が入ってくれて男子は久々に団体で全道に行かせてもらいま

した。その主力の半分が一年生で、推薦の子たちなんですね。その子たちと様々な話をした時に、なぜこの学校を、それも推薦で受けたのかという時に、やはりソフトテニスをやりたいくて、私立からも声がかかったのだけれど、進路を考えた時には北陵で、という子がいました。またある子は、一般が危ないと言われた、でも北陵に行きたい、それで推薦を受けて来たといっています。送り出す側として、どのあたりの生徒が実際に推薦を希望しているんでしょう。

L やはり率直に言って、その学校に行きたいけれど、ランクは足りていても学力に不安のある子が多いですね。入試を受けてもほぼ大丈夫という子は希望しないですし、また逆にその学校に固執しないのであれば、それはそれで別の所に行きますし。だから、本当に微妙なところにいる生徒が希望してきます。こちらから質問させて頂きませんが、北陵さんは推薦を導入して良かったですか？まだ導入していない他の高校では、推薦で入る子は学力的に苦労するから・・・みたいなことをちらっと聞いたりもしますし、その点をふまえてどうですか。

B 半期たちまして、先日一学年から検証が出たのですが、正直な話をしますと、入学直後ははっきり言って一般受験の生徒より振るわなかったです。しかし、時がたつにつれて、やはりやる気の問題でしょうか、少しずつ追いついてきまして、現時点では良し悪しはまだ私たちにも？の段階ですが、クラスや生徒会・部活などの点では活気が出ているのは確かだと思います。リーダー性を発揮してくれていることは高く評価できます。学力という点に関しては、先ほども言ったとおり一般とはちょっと差があることは否めませんでした。これに関しても私たちはある意味期待しています。現段階で○×はまだ結論できませんが、じっくりと様子を見ながら育てたいとは思っています。

A 入学直後の学力の点では様々なことが考えられるのですが、合格が一般入試よりも早く決まってしまうのでその分入学までの間が長くあるからとか、いろいろ考えています。一年生の担任ですのでクラスに5~6人、推薦の子がいるわけですが、良かったか悪かったかは3年通してこの子たちがどうやって育って行くのかを見てみないと本当のことはわからないと思うんです。本当に推薦を導入して良かったかどうかは今のこの子たちが卒業して初めて言えることだろうと思います。ただ、育つ伸びしろの部分、多分推薦の子たちの方が高いのかなという気はしています。私は生徒会の顧問でもありますが、執行部に例年ですと1年生3~4人が入ってくるぐらいでした。今年は現時点で13人が自主的に生徒会室のドアをノックして執行部に入りました。その内の半分以上が推薦の子たちですので、そういう意味では推薦効果は有るのかなとも思います。

B 推薦の話題は一旦ここで切らせて頂いて、次の話題に行きたいと思います。評価のことです。絶対評価が導入されて数年たっておりますが、評価のことについてはアンケートで「ランクのインフレ」などと表現されたりもしていますが、学校間格

差の懸念も有りますし、高校では絶対評価を結構早くから使っていますが、それでもちゃんと4つの観点を使いこなしているかと言えば厳しいところが正直言って有ります。中学校ではいかがでしょう、どんな問題点・課題を抱えていらっしゃるのか。I P先生、いかがでしょう？

P 2年連続で3年生を担当していますが、たとえばランクがBの子で学力試験が100点台という子が見られるようになってきました。他校では3以下の評価がないという教科もあると聞きます。他の学校の評価がわからないのでおしなべて言うことはできませんが、本当に絶対評価が正しいのかどうか、入試の時に自分の学校の評価がどう見られるのか不安な点があります。

B 他校と比較するチャンスがないのはその通りですよ。Q先生いかがでしょう？

Q おっしゃられたとおり、学校によって基準が違うので、ハードルがどのように設定されているかを知ることは無いですよ。それでも、相対評価から変わった時にそんなに大きな変化は感じられなかったです。5の子はやはり5で残るし、逆もあるし、極端な例は別にして、その子の良いところを取って評価してやろうという姿勢があれば、相対評価によって人数が決められているより良い部分もあると思います。

B 各学校での評価規準という点ではどうでしょう？

S 規準はまだまだ試行錯誤です。各教科間の差がないように校内で研修はしています。区内の学校で互いに情報交換をして、自分たちの出す評価に自信を持ってやらなければと思っています。開示を求められた時にきちんと対応できるような評価でありたいと思います。

B 中学校どうしでの情報交換は結構されているんですか？

S 教科間のつながりや、異動の人間関係などで情報交換することが多いです。私たちが一番気をつけなければならないのは、道外では1をつけない学校があるとか、変な情報による猜疑心を持たないで、受験に有利だから不利だからというのではなく、しっかりした観点別で評価をしていくことだと思います。

B 学習点と学力点のリンクがうまくいっていれば、絶対評価はなんの問題もないのでしょうか。なかなかそれを計る場が無いのかとも思いますし。M先生、いかがでしょう。

M 絶対評価が導入された本来的な目的からいえば、学力点と学習点がリンクする必要は無いと思います。我々がやっている授業に対してそのつどそのつどの検証があれば、我々は自信を持って責任を持って評価する責務があると思います。他校と比べて多い

少ないではなく、びしっとしたものであって良いと思います。これだけの授業をした上で、この観点からこれだけのことを見てるんだと毅然としていて良いと思います。相対評価が良かったのかと言えば、相対評価こそ学校間の格差が出ますよね。優秀な子の集まる学校の評価と必ずしもそうではない学校の評価では価値が異なる、なんてことがあったりしますよね。その点では絶対評価でよいのではないかと思います。そろそろこなれてきて落ち着く時期ではないかと思うのですが。

E 私の思いからすると、授業態度が非常に良く、質問もする、手も挙げるという子がいて、しかしペーパーは取れないと。そういう子がいたとすると、授業の積極性も姿勢も大事なのはわかるんですが、基本的な力無しに4とか5とかの評価というのはやはり無いと思うんですよ。相対評価が学校間の格差があるというのは私も感じます。だから絶対評価の導入の意味はわかるんです。それでも、評価というものは態度とか姿勢だけではないと思うんですが、どうなんでしょう。

M 態度だけでつけてるわけではありませんので、大丈夫だと思いますが。

E 学校間格差は無くなっているのでしょうか？

S 逆に伺いたいのは、中学校でつけた評価を高校ではどうみているのか、たとえば入学後のお迎えテストなどでの点数を見て、「中学校のこの評価でこの点数か」などと言うことがあるのかどうか、ざっくばらんに伺ってみたいと思うんですが。中学校の評価とのギャップを感じたりするんでしょうか？

B 英語の先生のご質問ですので、稲川さん、どうですか？

F 入ってきた時にはある程度の基礎力はあるものとして指導しているのですが、授業はほぼ1から始めるような形で、中学校の評価は私個人としては関係ないものとして、できるだけ見ないようにしています。

E 高校入試が簡単すぎるのかな？

S リスニングは簡単だと思います。

B 教科の方に話が移っていますので、一つ話題を提供しますが、今年の春に卒業した子たちが入学してから卒業するまでの成績を追いかけてみますと、入ってきた時の学習点・学力点と出て行く時の成績の相関はほとんど無いんです。入ってきた後いかに努力するかなんですね。2年生の後期くらいからはセンター試験の点数と日常の点数にもものすごく相関が見られるようになります。1年生から2年生前半までにいかに自分のスタイルを作るかが大事なんだと言うことですね。正直なところ中学校の学習点についてはそれほど気にしていないというのが実状です。時間も迫ってきましたので

今度は教科の話題に転換したいと思います。司会変わります、お願いします。

- A　　すでにもうこの時点で一時間が過ぎてしまいました。予定は残り30分ということでこのあと少し駆け足になるかもしれませんが、教科観点で話を進めたいと思います。アンケートから言えば2番目の項目「日常の授業の中で、教科の観点からごく労なさっていること」という所と4番目の項目になりますが「最近の生徒たちの印象」ということで、この二つをリンクした形で進めていきたいと思います。これらの項目で目を引いたのが「定規で直線を引けない子がいる」というものですけれど、これはR先生の所ですが、どうですか？
- R　　実際に教科の中で定規を使わせても駄目ですね。真っ直ぐではなくどうしても波打ってしまうとか、15 cmの定規で20 cmの線が引けないとか、そういう子が混じってきました。
- T　　私は技術科を教えているのですが、30 cmまでは何とか計れるけれど、それより長くなると「もっと大きい定規無いの？」となってしまう。そういう子が来るんだと思って対応はしますが、小学校でも30 cmまでのことしか取り扱ってこない。延長線にあることでもどうすればいいのかわからない。計算はできるんですよ。30 cmに何センチ足せばどうかとかは解る。でも実際にそれを活用して物を計るとかということができない。出来る子と出来ない子の差が大きい。それをすごく感じます。
- A　　4番の項目の回答にもいくつかの学校から「2極化」のことがふれられています。「勉強する子としない子の差」「生活力の有る子と無い子の差」と言うことかと思いますが、「与えられることに慣れてしまっている」とか、逆に「大人が与えすぎている」とかの意見があります。いかがですか。2極化は高校よりも中学校の方が多分大きいのではと思いますが。高校はそれなりにモチベーションを持って入ってきますし、それなりの点数の子たちが来ますのでまだ何とかなっている部分はあるのですが、I先生、いかがですか？
- I　　本校の場合は入試を経て入ってくるのでモチベーションの高い子が多いです。その点では生徒の意欲をこちら側がうまく活かしながらという指導が多くなります。子どもたちにはコミュニケーションをうまくとりながら授業を進めることを取り入れてやっています。私は3年前まで豊平区の中学校にいたのですが「2極化」については、ものすごく強く感じていました。小学校に責任を押しつけるつもりはないのですが、やはり、小学校でも苦勞されている学校があるんですね。その学校からの母集団がそのままあがってきますと、その学年は非常に落ち着きがなかったりとか授業が成立しなかったり、どうしても基礎的な部分が欠けていく子たちが多く、先ほどの定規の例はまだ良い方かなと感じたこともありました。中学校の現場レベルで基礎を身につけさせていくということに関してものすごく難しくなっていると思います。「生きる力云々」とありますが、なかなかそこまで到達するのは難しい、総合的な学習の時

間にしても、どうすればいいのか悩んでいる学校はものすごくたくさんあると思います。それが現状です。

A 授業・学力面だけではなく生活力の面でも何かあればお話しください。

K 生活面でですね、2極化の点で言いますと「自ら何かをやっていこう」という子は増えてきています。しかし逆に「何もしたくない」という子も多くなっています。その子たちを学習意欲とか学校生活の面でしっかりさせていくかというのが難しくなっています。先ほどの定規の話もそうですが、我が校では今年から養護学級が出来ました。今までそれがなかった時は、普通学級の中に一人でトイレにいけない子とか、平仮名が書けない子もいました。授業以外の部分で非常に苦労したのですが、いわゆる普通の子と言われる子の中でも温度差が生じてですね、周りとの一体感というか学校での生活を落ち着かせるのに苦労することは多いです。

A それでも少なくとも高校に進学しようという子が大半でしょうからそれなりのレベルを保って、入試向けの授業なども必要になるのでしょうか、その点はどう対処なさっているのか、O先生いかがですか？

O 私は数学なのですが、教える側から言うと、指導要領自体が「考えなくても良いよ」という姿勢で書かれているように感じます。だから、時折指導要領をちょっとはみ出して、「高校ではこのレベルのことを勉強するんだよ」ということをやっています。上位の子については高いレベルで、そうでない子には「ちょっと楽する方法」として教えて、何か引きつけるものがないかなと常に考えています。小出しにしては行くのですが、一時的な物で、長続きせずというのが現状です。しっかり体系づけてやりたいのですが、授業の削減がある中では辛いなと思います。

A 先ほどI先生の話の中で、学年間の温度差のような話がありましたが、この学年はどうだ、あの学年はこうだなどと感じることは確かにありますよね。これはいったい何なんでしょう？どうですか、答えはないのかもしれませんが、思い当たることないでしょうか？

E 田舎の学校などは典型的にその例が見られますね。落ち着いている学年はもう幼稚園の時からしっかりしていると言われるし、そうでない学年は小学校でも授業が成立しない。それが高校まで引きずって来る。札幌のように多くの学校が入り交じるのとは違って、一つの学年はほとんどそのまま上に上がりますから、中高の連携と言うだけでなく、小や幼稚園も含めた連携が必要だとも感じました。親の責任が一番ではあるのでしょうか。

I 私の話から始まったので責任を取ってまとめますが、初等教育は確かに大変だとは思いますが、でもそこに全部責任を押しつけてしまうのではないと思います。我々中学

校も今度あがってくる学年の子たちはどんな子たちなのかを積極的にリサーチしていかなければならないですし、それに合わせて必要なカリキュラムを組んだりとか、子どもたちを育てるプランニングをしたりだとかが必要なんだと思います。そこが連携の必要性だと思うんです。我々も責任を持って高校さんに生徒をお願いするわけですから、出来るだけその学年のカラーだとかをよく見て頂けるようにしたいですし、高校側も一人一人を活かして頂けるような魅力のある学校にしていって欲しいと感じます。それが、本当の中高連携かとも考えます。

J 私見ですが、今やっていることの意味づけがしっかり解っていない指導者に指導された子どもは、育ち切れないままなのかなと感じます。その対象が、親でも小学校教員でも中学校でも高校でも、どの場面でもそうだと思いますが、どんな子でも持っている知的探求心を満たされていない、大人に認めてもらえていない。たとえば、そのことになんの意味があってしなければならないのかを語らずに、「中学校に行ったら困るからこれをしなさい」とか「あれはしてはいけない」とかですね。「高校に行ったら指導されるから、髪を黒くしなさい」とかになってしまう。そういうことが積み重なるとあとあとうまくいかなくなるのだらうと思います。一個人に出来ることは微々足ることですが、心することはあるかなと思います。親と対話をする場面でも、しっかりとした意味づけを示して語らねばならないと感じています。

A 大事な話になっていますが、残り時間が少なくなってきました。一番の目的であった中高の連携についてに移りたいと思います。中高はいったいどういう情報のやりとり、どういう密接なつながりが求められるのか、を考えていきたいと思います。教科の面でいいますと、私は国語ですが、最近の中学校の教科書を見る機会がありません。新しいカリキュラムになって中学校ではどこまで教えられているのかまたはいないのかを知る機会もない。せっかくのチャンスですから今日からは先生たちともそのようなやりとりが出来るような仲になりたい、また逆に先生たちの方からも入試以外で高校とこんな風に結びついていたらいいね、と言うことがありましたらお願いしたいと思います。

Q 授業を拝見して、理科の授業を見まして、物理で「台形の面積」、科学でアボガド数「有効数字の取り扱い」についてを見た時に、中学校でやったことがしっかりと活かされているように感じて、非常に見て良かったと思います。

A M先生、国語の授業見て頂いて、授業者の小上先生もいますので、どうでしたか？

M 「係り結び」をやっちらっしゃったのですが、非常によくわかりました。中学校のカリキュラムの中にも「係り結び」はありますし、入試に必要ですから一応はふれますが、本音で言うと私は中学校に「係り結び」は必要ないと考えています。そんなことよりも「古典はつまらない」という固定観念を持たないように、「古典はおもしろいかもしれない」と言うことを感じさせる授業にしたい。高校に行けば、素晴らし

い先生たちが古典の奥深い世界を教えてくれる。私は古典のおもしろさを感じさせたい。逐語訳の授業では間違いなく古典嫌いになる。今の子どもたちは映像には良く反応するいわゆる「ビデオ脳」。私たちは言語で理解し言語で処理する「言語脳」でしょうが、彼らの映像処理能力はすごい。だから、逆にそういう脳を使いながら興味づけつつ、言語の世界に振り向かせるのが役目だと思っています。文法が必要だからワークをやってドリルをやってわかる。でもやっぱりそれよりも「古典の楽しさ」を感じさせる授業がやりたい、そう思っています。ただ単に入試に向けての授業、高校入試・大学入試に向けての勉強だけではないものを感じさせたいと思っています。

二極化は確かにあります。でもそれも逆に利用してグループ学習のようにして、解る子が解らない子の面倒を見て、そこにおもしろみを発見するとか、そういう授業がやれるのではと思っていますけれど。

G 中学校の規準と高校の規準、特に大学進学を目指しているような学校の規準とは大きく違っていると思います。中学校の多極化している生徒を見ていて、先生方がものすごく苦勞なさっているのは重々感じます。大変なのは良くわかる。ですから、文法などでも中学校で何を教えているのかなどとは思わない。後は高校に任せてください。高校で何とかします。教科の連携と言ってもなかなか難しいと思います。教科書こそなかなか見ませんが、中学校でやっていることは何とかつかまえますから。大変さはよくわかります。あとは任せてください。北陵は任せて頂いて結構な学校ですから。どうか、その多極化した生徒たちと充分にやりとりしてください。

A 時間になってしまいました。まとめになりますが、先ほども言いましたように、これを契機にして、是非つながりを持ちたいと思います。一人一人の生徒を中にしたつながりもあるでしょうし、学校同士のレベルでのつながりもあると思います。いずれにしても、いい関係を築いていきたいと思いますので 今後ともよろしく願い致します。

B 最後に一つ先生方に聞きたいことがあったのですが、また後にしますけれど、総合的学習の時間についてです。これは今後学校を変革する起爆剤の一つだと考えています。人間形成という意味でどうにかして使っていきたいと思うのですが、中学校の先生方も大変苦勞されているのがアンケートでもわかります。今後また、学校訪問などで伺った時にでもお話を聞きたいと思います。たとえば、重複の件なども聞きたいのですが。小学校でやったことを中学校で繰り返し、高校でも同じことをやっても意味はないのではとか、それこそ最も連携が必要な所ではないかとか、様々ありますので、是非、機会があれば教えて頂きたいと思います。

A では、教頭、最後の締めをお願いします。

D どうもお忙しい中来て頂いて本当にありがとうございました。貴重なご意見たくさん伺えて意義があったと思います。一時間半が本当に短くて、もっとあったら良かった

たと感じております。これを参考にしながらしっかりやっていきたいと思ひます。また機会がありましたら是非、お会いしたいと思ひます。どうも誠にありがとうございました。

A ちょっと寒かったですね、申し訳ありませんでした。では終わらせて頂きます。